

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月11日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21592681

研究課題名（和文） 社会変革期における F. Nightingale の業績の今日的意義に関する系統的
的研究研究課題名（英文） Challenge to extract the positive findings for nurses in modern day
from F. Nightingale's work about social reform

研究代表者

和住 淑子 (WAZUMI YOSHIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：80282458

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、社会変革期における F. Nightingale の業績を制度改革の観点から系統的に分析することによって、さまざまな制度の変革期にある現代において、看護が本来の役割を果たしていくための示唆を得ることである。

本研究の成果として、「経営破綻をきたした慈善病院を患者の健康回復を主眼において再建する」というように、病院の経営効率の追求と患者サービスの向上との両立を実現する、ダイナミックな問題構造の把握の特徴と解決方法の特徴を導き出すことができた。

これらは、今日我々の抱える、貧困、格差、地域医療崩壊等の課題と共通性を持つものが多く、看護が本来の役割を發揮していく上で重要な示唆を与えてくれているものと考えられた。

研究成果の概要（英文）：

The challenge for modern day nurses in finding solutions to modern day complex problems could be minimized by learning from F. Nightingale. The purpose of this study was to extract the positive findings realized by F. Nightingale's work related to social reform.

F. Nightingale's way of grasping the structure of problems was characterized by her consistent vision and attention to the needs and wellbeing of her patients over anything else. Despite the myriad of administrative, financial and executive decisions that needed to be made under a situation of scarce financial resources, she managed never to lose sight of her patients' wellbeing. Although she was keenly aware of the dire financial situation facing the economy and hospitals, she only took pride and felt a sense of accomplishment when she was able to maintain or improve patient satisfaction in the face of needed cutbacks and budget limitations.

It was suggested that these findings would be helpful in finding a way to solve similar problems including poverty, joblessness and the systemic financial trouble facing the community medical services which is still an issue to this day.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	3,800,000	1,140,000	4,940,000

研究分野：看護行政・政策

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：ナイチンゲール，看護哲学，社会変革期，制度改革，看護政策

1. 研究開始当初の背景

地球規模で大きな環境の変化が起こり、少子高齢化が進展し、社会の格差が拡大していくのに伴い、さまざまな社会保障制度が行き詰まりの様相を呈している。その中で、いかに健康に生きるかが、改めて人類共通の課題となってきた。看護は、健康の担い手・守り手として人類とともに歩んできた長い歴史をもつが、このような激動期における社会からの要請に対し、専門的見地から十分に応え得ているとは言い難い現状にある。

看護の専門性の確立は、F. Nightingale (1820-1910)に端を発するが、彼女は、当時の英国の激しい社会変革の最中であって、人類の未来を見通した数々の注目すべき提言を膨大な著作に書き著し、幅広い制度改革の礎を築いた。制度変革の必要性が叫ばれている今日において、看護が社会からの要請に応え、本来の役割を発揮していくためには、同じく社会変革期において看護の専門性を確立し、制度改革の礎を築いた F. Nightingale の業績から示唆を得ることが有用なはずである。そこで、以上のような着想のもと、F. Nightingale の生涯にわたる業績を制度改革の観点から系統的にレビューすることとした。

2. 研究の目的

社会変革期における F. Nightingale の業績を制度改革の観点から系統的にレビューすることによって、さまざまな制度の変革期にある現代において、看護が本来の役割を果たしていくための示唆を得る。

3. 研究の方法

(1) 社会変革期における F. Nightingale の業績を整理し、制度改革という観点において注目すべき業績を特定する。

(2) (1) で特定した業績について言及している F. Nightingale に関するこれまでの学術的研究を収集し、それらの文献が F. Nightingale 業績のどの部分に焦点を当て、どのような観点から検討しているのかについて分析する。

(3) (2) の結果から、F. Nightingale の業績から今日的意義を導き出すために不可欠な要素を導き出し、その要素を踏まえた分析フォーマットを作成する。

(4) (3) で作成した分析フォーマットを用いて、(1) で特定した業績を分析する。

(5) 以上の結果をもとに、さまざまな制度

の変革期にある現代において、看護が本来の役割を果たしていくためにはどのような取り組みが可能であるかについて考察する。

4. 研究成果

まず、社会変革期における F. Nightingale の業績に関する資料を収集し、その業績を制度改革の観点から整理し、制度改革という観点において注目すべき以下の12の業績を特定することができた。

- ①看護管理者として経営破綻に瀕したハーレイ街病院の再建に手腕を発揮
- ②看護団を率いてスクタリへ赴任
- ③英国陸軍の衛生改革
- ④病院統計の標準化と聖トマス病院への支援
- ⑤ナイチンゲール看護婦訓練学校の開校
- ⑥ナイチンゲール助産婦訓練学校の開校
- ⑦大英帝国支配下のインドの衛生改革
- ⑧救貧院の看護改革
- ⑨ナイチンゲール助産婦訓練学校閉鎖、出産と死亡率および産院の実態調査
- ⑩ナイチンゲール看護婦訓練学校の再建
- ⑪地域看護運動
- ⑫看護婦登録制度に関する論争

次に、上記の12の業績に言及している F. Nightingale に関するこれまでの学術的研究を収集し、それらの文献が F. Nightingale 業績のどの部分に焦点を当て、どのような観点から検討しているのかについて分析した。その結果、F. Nightingale の問題の構造把握の特徴及びその解決に向けた活動の特徴を分析し得ている文献、当該業績の背景となる当時の社会情勢と今日の日本の社会情勢との共通性・相異性を検討している文献が、さまざまな制度の変革期にある現代において、看護が本来の役割を果たしていくための示唆を示し得ていることがわかった。

この結果より、社会変革期における F. Nightingale の業績から今日的意義を導き出すためには、①F. Nightingale の問題の構造把握の特徴及びその解決に向けた活動の特徴を分析すること、②当該業績の背景となる当時の社会情勢と今日の日本の社会情勢との共通性・相異性を検討すること、の2点が不可欠であることがわかった。

そこで、先に示した12の業績を、上記2点から分析するための分析フォーマットを作成し、その分析フォーマットに基づいて、12の業績を分析した。

その結果、「経営破綻をきたした慈善病院

を患者の健康回復を主眼において再建した」
「救貧院のあり方自体が、病気からの回復の遅れや生活困窮者の自律の遅れを生み、結果的に経済状況を悪化させていることに着目し、病人と生活困窮者の分別と分離、制度の一本化・効率化、財源として一般地方税の適用を提言した」「疾病予防活動は、単なる市民同士の助け合いではなく、専門職を必要とする最も高度な事業であると認識し、住民の生活の中に入りこんで衛生教育をできる人材と個別の成果を統合して評価できる人材の育成および公衆衛生システムを提案した」など、Nightingale の看護の理念に貫かれたダイナミックな問題構造の把握と解決方法の特徴を導き出すことができた。

これらは、今日我々の抱える、病院の経営効率の追求と患者サービスの向上との両立、貧困、格差、地域医療崩壊、人材育成等の課題と共通性を持つものが多く、F. Nightingale の看護の理念に貫かれたダイナミックな問題構造の把握と解決方法の特徴は、看護が本来の役割を發揮していく上で重要な示唆を与えてくれているものと考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計17件)

1. 山本利江, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 丸茂智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子: F. ナイチンゲールにみる調査研究の手法—インドの衛生改革を例として—, ナイチンゲール研究学会第32回研究懇談会, 2011年9月25日, 東京都

2. 和住淑子, 山本利江, 斉藤しのぶ, 丸茂智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子: F. ナイチンゲールの業績から今日的意義を導き出すための研究方法について—「看護婦登録制度論争」を例として—, ナイチンゲール研究学会第32回研究懇談会, 2011年9月25日, 東京都

3. 斉藤しのぶ, 和住淑子, 山本利江, 丸茂智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子: 「クリミア戦争」におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究—陸軍病院における看護の実現に向けた活動の特徴—, 日本看護歴史学会第25回学術集会, 2011年8月27日, 沖縄県

4. 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子: 「看護婦登録制度論争」におけるF. Nightingale

の業績の今日的意義に関する研究—看護職の集団としての質的水準の担保政策に焦点をあてて—, 日本看護歴史学会第25回学術集会, 2011年8月27日, 沖縄県

5. 河部房子, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂智子, 永田亜希子, 水口陽子: 「助産婦訓練学校閉鎖」におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究—医療現場における危機管理という観点から—, 日本看護歴史学会第25回学術集会, 2011年8月27日, 沖縄県

6. 丸茂智子, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子: 「助産婦学校開校」におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究—F. Nightingale の考える助産のあり方に焦点をあてて—, 日本看護歴史学会第25回学術集会, 2011年8月27日, 沖縄県

7. 永田亜希子, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂智子, 水口陽子, 河部房子: 保健衛生改革に統計的手法を活用したF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究—英国陸軍病院衛生改革に焦点をあてて—, 日本看護歴史学会第25回学術集会, 2011年8月27日, 沖縄県

8. 水口陽子, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂智子, 永田亜希子, 河部房子: 「看護婦訓練学校再建」におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究—今日の看護教育における意義の検討—, 日本看護歴史学会第25回学術集会, 2011年8月27日, 沖縄県

9. Yoshiko WAZUMI, Shinobu SAITO, Toshie YAMAMOTO, Michiko MARUMO, Akiko NAGATA, Yoko MIZUGUCHI, Fusako KAWABE: Challenge to extract the positive findings for nurses in modern day from F. Nightingale's work about social reform, World Academy of Nursing Science 2nd International Nursing Conference, 2011年7月15日, カンクン (メキシコ)

10. 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子: 「英国陸軍の衛生改革」におけるF. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究, 第30回日本看護科学学会学術集会, 2010年12月3日, 札幌市

11. 斉藤しのぶ, 和住淑子, 山本利江, 丸茂智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子:

「ハーレイ街病院の再建」における F. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究, 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 2010 年 12 月 3 日, 札幌市

12. 水口陽子, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂美智子, 永田亜希子, 河部房子: 看護婦養成における F. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究, 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 2010 年 12 月 3 日, 札幌市

13. 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子: 「救貧院の看護改革」における F. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究: 丸茂美智子, 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 2010 年 12 月 3 日, 札幌市

14. 山本利江, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 丸茂美智子, 永田亜希子, 水口陽子, 河部房子: 「大英帝国支配下のインドの衛生改革」における F. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究, 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 2010 年 12 月 3 日, 札幌市

15. 永田亜希子, 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江, 丸茂美智子, 水口陽子, 河部房子: 「地域看護運動」における F. Nightingale の業績の今日的意義に関する研究, 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 2010 年 12 月 3 日, 札幌市

16. Yoshiko WAZUMI, Shinobu SAITO, Toshie YAMAMOTO, Michiko MARUMO, Akiko NAGATA, Yoko MIZUGUCHI, Fusako KAWABE: Development of the framework for extracting the positive findings for nurses in modern day from F. Nightingale's work about social reform, 2010 Beijing International Nursing Conference, 2010 年 8 月 20 日, 中国 (北京)

17. 和住淑子, 斉藤しのぶ, 山本利江: 社会変革期における F. Nightingale の業績を評価するための分析枠組みについて, ナイチンゲール研究会第 30 回研究懇談会, 2009 年 10 月 4 日, 東京都

6. 研究組織

(1) 研究代表者

和住 淑子 (WAZUMI YOSHIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号: 80282458

(2) 研究分担者

山本 利江 (YAMAMOTO TOSHIE)

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号: 70160926

斉藤 しのぶ (SAITO SHINOBU)

千葉大学・大学院看護学研究科・講師

研究者番号: 90292680

(3) 連携研究者

水口 陽子 (MIZUGUCHI YOKO)

新潟県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号: 30195193